



家道訓

總論

9

4100





9
4100

家道訓



やとくしてあたなりつゝあれは人になれ
い家人と教へらるゝ人にならぬ
れは家人の則とて言はれりあはれに
あつてあはれにあらねど教ふは人の身
乃ち家人の心ありつゝあはれにあら
はれし

元身とあはれにあらねど教ふは人の身
れは人倫の作はれどあはれにあら
則ちあはれとてあはれにあらねど人

乃ちあはれにあらねど教ふは人の身
まは人倫の道とていざれ人乃ち禽獸あ
るはれあはれにあらねどあはれにあら
ものは同じれとあらねどあはれにあら
まはれあはれにあらねどあはれにあら
いあらねどあはれにあらねどあはれに
あはれにあらねどあはれにあらねどあ
あはれにあらねどあはれにあらねどあ
あはれにあらねどあはれにあらねどあ

うゝに

常にれとちりて肉のとちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の
ちりてとちりて肉のちりてとちりて肉の

しき肉のちりてとちりて

父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて
父母のちりてとちりて父母のちりてとちりて

家道川

けい必父母とるりる。父母は對しては
 色を温むとしてゑとわく、すくひに父母の
 色欲よりこりぬ。父母の身とまらるふ二乃に
 とて關つゝはも皆人なりける老のさり
 たるは也げはよそじへうに父母の身と
 つひよこひ慕ひてなやみまぐれされる
 を考へず

兄才にじりまうくまぬわして別わの妻と
らひくみれとわて。子才とわいえい

わくむじとこころ然もよつとそむい^{ツク}が^{ツク}か
 ねちくみ^{ダケイ}方とみらしとれとつとあ書と
 とも^{ダケイ}義をちとよまおとりあううーじん
 ー。ん子^{ダケイ}方の教い必^{ダケイ}嚴^{ダケイ}心ちるうー

九家の言を以て教養せしむる人のまづ父母
 によりつゝるを第一の事とせしむ。次いで妻
 とみらひまゐるを第二の事とせしむ。要し
 て教養は^{シモ}おとつゝるは^{シモ}教養の^{シモ}礼法と
 せしむ。とて^{シモ}おとつゝるは^{シモ}教養の^{シモ}礼法と

ぬる目のつとじんま裸殺をさつけとてえ
奴婢よそ自乃所他とてつきあこころあう
しあ外るあうは彼を令し人の海託の
らに滞なくさうの之しおいさくせし戸
とよく開くせぬ目れ塵をさうし戸の外
を中と掃潔して居るさうとて人しお
やとくわくるいあれとてさうさうさうし
て。お人あのかききとておさうさう乃
迷とい試しとてさうしとてさうし

んあ目の平目乃用をさうとてさうとて
一。牙よ木目の秋とての種とてさう
次は塩おととて之補強とてさう。新炭油
とてさうとてさうとて。右乃貯るけとて
の計とては奴婢とてあうれとて衣食は
をさうして飢をさうとてさうとてさう
て。男女内中乃別はさうとて。武士の陰を
から矢鉄炮杖多は常は候しとて
おとて。常は用はさうとてさうとて

わづらふえたる者ばわづらふくはる
者よ湯あふむ人むむる者よとけ^{イニナナキ}知を
いつく痛人とつらう人乃子牙に孝す
そそちくむむ人^{イニナナキ}の昔とむ能といち
すいぢ人のものまらとそら^{イニナナキ}人の悪はく
してわづらふ人れむ悪といふはるよあ
るむのうらうらむで人^{イニナナキ}害する物と
道よとらう物とむらうむらうむらう
つらうむらうむらうむらうむらうむらう

てみぢりよ殺さむつらうむらうむらう
をむらうむらうむらうむらうむらう
つらうむらうむらうむらうむらうむらう
くのみむらうむらうむらうむらうむらう
あむらうむらうむらうむらうむらうむらう
人むらうむらうむらうむらうむらうむらう
いふむらうむらうむらうむらうむらうむらう
むらうむらうむらうむらうむらうむらう
うむらうむらうむらうむらうむらうむらう

家道川

一

下はくもなかり多し。その押あさるけし。
 即^{ツク}付^ヒみそをさるゝあけまで後必じくいなり
 うさふさふさ。ぬきをゆきでけ多くして人
 けこゝすといふ。さうといふ。え乃あてりふと
 りのふささ。えり。おさるゝ。

武士と人々を武備^{ブイ}を用いて兵具^{ヘイグ}として
その心を導く。そして、修補^{シュホ}し常に事^{コト}
配^{ダイ}せる大小^{コノミヤ}の器^{モノ}を矢^ヤ隠^{カクレ}せらるゝ。

へて今親を侍りしも。武佐のふり別れた
 くは、^ラきくみし。あまのつねに不具してゐる
 用ありとも。武佐のふりよこしく、きくとれて
 由あるは、元武佐の地乃、黒よりきくふ
 し、おろにきくみし。あまのつねに不具してゐる
 み、きくみのつねに、おろにきくみし。あまの
 つねに、おろにきくみし。あまのつねに、
 のとんていそつち、おろにきくみし。あまの
 武具も、きくみし。あまのつねに、
 飾とあまのつねに、

家訓言一
あのみつひは仁を以て善と爲ふといふ
こと一はといへば縁故ありは兄弟親戚乃
貧窮を以ていひ朋友のなきは孤獨をわが
采地乃老人の殘を以ていひ老を久
く來れる貧困ある老は何となく窮民
のよりある老のいはゆるに似て
てすくなくも人の心をも人病を
得る盲塞痛むく子れく幼くして父を失ふ
老なるくも親族なくてさうう合はれぬ

ひでんこの世を人となり老あり是皆
窮民のよりある人でありしに
能ある老ありは人のなるはといひぬ
くじりうある老いなりといひぬ
く人ともいひ言はるる人なるを
最ふといひまゐる也を以て漢の明帝
の才東平王の如くありしは
乃汝國ありて何となく
ある國ありて何となく

コタ 一 夢らわしうじちうられん家もろ
ヒン セン ともあつちうも。こは^{コラ}後よ^ラあつて^セ古とらん
ア。あふわれいあつちうても同じ^コ昔^コ経て
お。あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
とらん^コじ^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ

あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ

こつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ
あつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コあつちう^コ経て^コ

[illegible]

凡家人とつゝ子といふ人の名は井のつゝといふ

くろくともあらうて。んばくろくもあらうて
ほじろくもく奴婢ハ主人とたのんで刃や
しりふ考也。心を引く情ナサチある人―リウ神ハシ意イよ
ろく情なくれとくろくじんは我とて人を
つゝ考い下人のうまひくろくも我よく我ひ
ろくろくめんくろくもく

家とやまじふふに乃教あり。一よい家業を勤
わく生業とやまじ。二よい儉約ありて費用
と足らぬ。三よいつくそてわく身とぬり。

約はとていつまやうなる也。ほ一のちか
らとれらるるげなる。故云。是と云。情懸くふ
せむ。結申と節ふする。いふ。故云。おこめ。面と
なり。道なり。福徳は約をいふ。是るよ。この
て。わく。このふ。つ。約され。い。あや。こ。と
く。あ。こ。り。

家のさ。ありて。三族と。さ。し。二族
い。才。一。父族。才。二。母族。才。三。妻族。なり。
又。方の。二族。い。母族。と。云。先。祖。より。供。え。る

血脈。同。親。疏。の。う。り。あ。れ。と。わ。ま。し。て。同。ま
ち。る。ゆ。え。あ。つ。く。さ。し。し。て。父族と。あ。つ。く
さ。し。じ。い。は。是。又。先。祖。つ。う。ろ。ろ。ち。り。次。ぐ。い
母。方。の。一。族。い。是。又。族。よ。つ。ご。を。さ。し。し。て。
次。は。妻。の。一。族。い。母。の。族。よ。つ。ご。り。三。族。と。さ。し
し。て。次。才。輕。き。く。た。か。し。是。古。の。け。也。
今。れ。人。い。妻。族。と。も。つ。く。さ。し。て。父族。母族
み。う。さ。し。輕。き。あ。つ。く。さ。し。す。又。母。い。乃
不。孝。ち。り。母。う。あ。り。と。云。し。妻。族。と。さ。し

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side.]

家道訓卷之二

貝原篤信編

家のわざはひよくつゝしむるに利^リ害^{ガイ}の求^{モト}めは
てそ由^{サユ}あり。士^サも農^{ノウ}も工^{コウ}も商^{ショウ}も
るるらうとて。農^{ノウ}は田^{デン}を、工^{コウ}は器^キを、
それて公^{コウ}役^{ヤク}をよくつゝしむ。工^{コウ}は器^キを、
用^{ヨウ}よくしむ。用^{ヨウ}よくしむ。用^{ヨウ}よくしむ。
アそ人と欺^{アサシム}に高^{コウ}い。高^{コウ}い。高^{コウ}い。
らと。利^リと。利^リと。利^リと。

あれどわあうらゝは利とひさしられも福
福いそのづゝあるつゝしきまゝに紙を
よつゝあひしてひさしとして利とひさし
考へて一旦人より音なりといふこと。天
道のみこころを知られぬ後、必^{必ず}禍あり。悪人
の時よく利をとんとて後の福と云ふ
こと。民たに忠じむよりの家あれば紙を
つゝて天乃とせむとく候あるべし。是れ
この世のことも福紙ゆゑ道なり。

まねとちのこのおはぬ婢のちまねとく人
いふにいふおはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人

これとちのこのおはぬ婢のちまねとく人
いふにいふおはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人
ちまねとく人おはぬにちまねとく人

まはすあつとも質実なる代好に
 ぐうともゆふれとも質実なる人
 の教はさういふとほの徳なり
 つゆへの信は回不疑不諱不惑
 家人の徳ある代好に
 して世にあらるる人
 て世にあらるる人
 世にあらるる人
 世にあらるる人
 世にあらるる人

なるべし。そのまゝにあらはれぬ家のみ今
 もうとていふことさうくをひつて、大には
 るべきがゆゑともなくいへば、いふれども
 智者のまゐるるまじり。よんぶん婦人乃云
 し、成程これハ必あやまる。是こそ言て候
 まるに君ありや。知るこそ老きたり
 ころへは、いふわきぬ。よくもて用ゐら
 下人利にあてわのちよろこびたり。たゞし
 ぶといふに、おぼえすぐれハ必にぞろあゝりて

此の如くして私と別ひて主人の徳に
 ついて身も心も元利口なる者ハ必倭奸
 なるゆへに主人の名よろいせし
 是ともいふれにわさつひとある。我々の人
 ーこのひるひ

奴^ス婢^ビは衆^{ツミ}なりとも。くろくじとてさへなり。
ら。くみくもさへは。あうもさくじとて。穢
しある。おもとも。くじも。ふれや。育へ
れ。相^{アヒナ}各職^{アヒナ}分^{アヒナ}なり。犬^{イヌ}の。おとちり。鶏^{トリ}の。農^{ノリ}は。

つゝさるるも亦職なり。禽獸キニビツモノの如
く況人イナヒをや人各職なり。おれオノも
てゐる人とおれとをひらては
しは職なり。民のつゝさるる
も民とおれは職なり。今も
とほくは位より人。を位より
を職なり。つゝさるるは名
なり。

家のまじかりて祐よつとありて告はされ

い後よふれー父のゆつとけーに
わ又福と神くはる何なりおれおさじ
おは約あふれーに熊とくえく作
のふれおれおれと用るふ後あふ費
やふすお業とつーめくおさるるは皆
神よるーじありおれおれに神いんり
しーはのちあふとおさるるはとありあ
といは後よふじちなりおれおれけーあふ
つーめく若ーじいおれおれとたなりおれ道也

凡のさくちよしとあされい後のあふ
わと時くるーんてはとあさるーにふおるむ
後まとのあふなるわと時くるーに目と
さきふいふれるあふとありとあり
ぬ人小人の言奴婢の後言るるふとあり
らに父子兄弟あぬのいれるあふーみ
もおるの人のらるは後とれいふるあ
はちるぬ人小人の後とけしとあり
すれ子けるるあふとありとありとあり

くるなり。和漢古今すべし。此は
 ちるものなり也。元徳と云ふは、
 それれり。いふに、カタナチとて、
 あやまる。つゝ、ハナ。周子曰。家
 の人、必婦人よあはる。

敵の主人より人に物を作らうといふ。元来強て云
へるを成さざるよと云ふ。小悪成た悪く云
れし所を實みせむ。善といふところふ
きふ。或も人のせいよと云ふをあらしていふ。

一に諸侯者乃てくまあるをわたりてく
人ものふをあるにゆきてくはオカ
る人ものふをあるに迷やとくは
て。此智あるをくま

富者の家より貧乏なる親戚の出入りあるを
人々にむすものありきとあはれなくとも
の面目とすべしとぞ人のあるはくさくさ
なり

わが身は大事なりとて忠告^{まご}を^り受^けて決^{けつ}して死^しする

あり。又おやけよ。事皆さるゝ人
いふに、人の評傳もさるゝ。
その身は、私欲ある所。あらう人とは
くちりて、無の理をさるゝ。
思ふに、命十といふと、井戸と傍カキハラ
つれあひさるゝ人のとりえも
あらず。わづらひのあはれも、
基成のむじろのははらひも、
さるゝ老に眼メあつたか。

人々一世の内を暮らして我々素よりい
 うせんといひてはきこへたるもの多し
 知るありて能く是非を分別し朋友を平
 生にわく者にはきこへたるもの多し
 何れ人の心とてなりぬべしわが身又な
 りやうの身みちるものなりけりいふに
 らしくはきこへたるものなりけりいふ
 ことと能くわくものなりけりいふもの
 人々の心も身も女の心もいふものなり

はるきれ人の名の回しあつてゐるを
わづらのちと事わの氣はあつてゐるを
くくづげとて人の名はさういふ事
ありうもはさういふれとて老い
ううもはさういふれとて老い
わづらのちと事わの氣はあつてゐるを
くくづげとて人の名はさういふ事
ありうもはさういふれとて老い
ううもはさういふれとて老い

へるはさういふれとて老い
ううもはさういふれとて老い
わづらのちと事わの氣はあつてゐるを
くくづげとて人の名はさういふ事
ありうもはさういふれとて老い
ううもはさういふれとて老い
わづらのちと事わの氣はあつてゐるを
くくづげとて人の名はさういふ事
ありうもはさういふれとて老い
ううもはさういふれとて老い

あてをいじろふ男女の別なく内外の海と
さうくすへに混乱なりしに人々男女
の別なくあはれにされいふ事ありとも
うれ儀なく風俗みたりしとて淫行お
ゆるぬ風といへり罪めやらうる事と
いへりて淫邪やあはれに人々
婦人女子の志に外よりせられ節を失く
遊観とこのひらきまてぬ人々内は皆て
あて治る風俗とすおのれゆるる事いひま

いふるの親戚の事と忠告をいふ言に
と通とて
婦人いひしれ付法柔にさあさくまての義
邪なりと云ふ事ありしに女僕なる人
いふやうくして義理をうらうとていふ
あてとるなりとていふ事ありしに道徳をい
ふ事とていふ事ありしに人々いふ事
不明とてあてわれしに人々いふ事
はあてとていふ事ありしに人々いふ事

家人のうへにこれ義と云ふてあると云を
 さいまうじにゝある物あるのうへに
 ひのちとてこれと云ふと云ふにほひに
 まうじにゝある物あるのうへに
 不ちとてあると云ふと云ふにほひに
 たうとてある物あるのうへに
 病ありとてある物あるのうへに
 病ありとてある物あるのうへに

て苦味服をんより。苦病乃耐く。苦生す
道へ病なり。

家のさう人親オホカミい。おはなのううくちううは威イサに。
 家は乃うともうと毒とす。富トモきあるとて盛サカ
 とす。ううは毒ありとて毒とす。ううは
 家の盛イサを衰スエはれ義の約やくとくし約やくとねる
 とふうなり。是古人乃うつるを也。との世れ
 人も亦またぐのやうなり。
 奴婢をつうやうをうやうとふくして礼は

いふと思ふにやういふ

惑^{サカサ}奈のれい^{サカサ}やういふとつていふと^{サカサ}は^{サカサ}や
るされい^{サカサ}を^{サカサ}用^{サカサ}ら^{サカサ}く^{サカサ}あ^{サカサ}る^{サカサ}す^{サカサ}い^{サカサ}や^{サカサ}ら^{サカサ}と
う^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}に^{サカサ}統^{サカサ}れ^{サカサ}る^{サカサ}國^{サカサ}は^{サカサ}よ^{サカサ}う^{サカサ}い^{サカサ}つ^{サカサ}
ら^{サカサ}と^{サカサ}時^{サカサ}宜^{サカサ}は^{サカサ}き^{サカサ}い^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}は^{サカサ}と^{サカサ}風^{サカサ}俗^{サカサ}ぬ
ら^{サカサ}じ^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}か^{サカサ}ら^{サカサ}う^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}と^{サカサ}つ^{サカサ}て^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}に^{サカサ}祖^{サカサ}
い^{サカサ}子^{サカサ}孫^{サカサ}乃^{サカサ}根^{サカサ}を^{サカサ}ち^{サカサ}ら^{サカサ}年^{サカサ}教^{サカサ}つ^{サカサ}て^{サカサ}ら^{サカサ}き^{サカサ}う^{サカサ}と
う^{サカサ}と^{サカサ}も^{サカサ}さ^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}い^{サカサ}て^{サカサ}う^{サカサ}と^{サカサ}う^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}に^{サカサ}時^{サカサ}宜^{サカサ}乃^{サカサ}
あ^{サカサ}つ^{サカサ}て^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}は^{サカサ}統^{サカサ}れ^{サカサ}る^{サカサ}の^{サカサ}を^{サカサ}も^{サカサ}さ^{サカサ}

あ^{サカサ}う^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}の^{サカサ}根^{サカサ}は^{サカサ}つ^{サカサ}ら^{サカサ}う^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}へ^{サカサ}枝^{サカサ}葉^{サカサ}
あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}さ^{サカサ}に^{サカサ}根^{サカサ}は^{サカサ}あ^{サカサ}る^{サカサ}と^{サカサ}れ^{サカサ}い^{サカサ}子^{サカサ}孫^{サカサ}さ^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}
あ^{サカサ}わ^{サカサ}る^{サカサ}さ^{サカサ}う^{サカサ}れ^{サカサ}も^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}根^{サカサ}は^{サカサ}あ^{サカサ}る^{サカサ}さ^{サカサ}
い^{サカサ}さ^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}と^{サカサ}あ^{サカサ}る^{サカサ}さ^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}

う^{サカサ}ら^{サカサ}の^{サカサ}統^{サカサ}は^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}の^{サカサ}用^{サカサ}を^{サカサ}ち^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}
と^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}と^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}は^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}事^{サカサ}と
あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}塘^{サカサ}と^{サカサ}あ^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}
と^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}と^{サカサ}う^{サカサ}ら^{サカサ}い^{サカサ}ふ^{サカサ}は^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}
あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}に^{サカサ}あ^{サカサ}ま^{サカサ}る^{サカサ}

あつてふまされハ死よのそんて命ヲ
とめられハ^{ライ}針ハりうれ人衆^{モツ}新^{シニ}仲^{チヤ}の
たちら^カ是よのひれも乃之^{ナニ}針^ハチ^カり^{コト}じ
ひ^カま^カて^カ針^ハと^カめ^カそん^カハ^カ針^ハと^カめ^カ
らう^カと^カめ^カと^カめ^カ

[illegible]

Yuz



Handwritten signature in black ink, likely reading "Kobayashi" (小林).

如
絲

訓道家